

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2019年3月）

目 次

内 政

- ◆国防省による米国との「軍事協力協定」交渉不参加表明 2
- ◆ジャーナリスト殺害事件の殺害依頼者の訴追 2
- ◆米国との「軍事協力協定」等を巡る連立与党内の意見の相違 2
- ◆大統領選挙の結果 3

外 政

- ◆クリミア併合5周年に関するスロバキア外務・欧州問題省声明 5
- ◆EU・中国関係に関するスロバキア政府要人の発言 5

社 会

- ◆エチオピア航空機墜落事故 5

経 済

- ◆スマートシティに関するV4会議の開催 6
- ◆中国発スロバキア経由欧州行きの貨物列車の運行中断 6

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆国防省による米国との「軍事協力協定」交渉不参加表明（12日当地各紙）

スロバキア国防省は、米国との「軍事協力協定（DCA）」交渉への参加取り止めを表明した。国防省は、外国軍活動のための法的条件が確立される場合、スロバキアの主権が脅かされることになると主張しており、スロバキア国内における米軍基地設置や、米兵の駐留を懸念している。

米国とのDCA交渉の責任を有している外務・欧州問題省は、国防省が同交渉への不参加を表明したことについて、驚きを持って受け止めている。同省は、スロバキアが米国との軍事協定を拒否する唯一のNATO加盟国になる恐れがあると主張している。

在スロバキア米国大使館は、「DCA協定が結ばれる場合、米国は、マラツキ（西スロバキア）及びスリアチ（中央スロバキア）にあるスロバキア空軍基地の改修のために、1億500万ドルを拠出できるようになる」と説明するとともに、「米国による空軍基地への投資は、NATO加盟国との共同防衛能力を強化し、スロバキアの安全と主権を守ることになる。米国は、スロバキアにおける米軍基地の建設や米軍の常駐を求めている」とコメントしている。

◆ジャーナリスト殺害事件の殺害依頼者の訴追（15日付スメ紙）

警察は、昨年2月に発生したジャーナリスト・クツィアク氏及び婚約者殺害事件に関し、実業家コチネル氏を殺害依頼の罪状で訴追した。コチネル氏は、昨年8月に有価証券偽装の疑いで訴追され、現在に至るまで勾留されている。

検察は、コチネル氏の他にも、殺害を依頼した人物がいるか否かについては明らかにしていない。昨年秋、クツィアク氏殺害事件の実行犯及び仲介者等4名が訴追され、現在も勾留されている

警察は、クツィアク氏殺害事件に伊マフィア「ンドランゲタ」が関与した可能性を排除し、同事件に対する伊警察との協力を打ち切った旨表明した。他方で、同事件に対する欧州刑事警察機構(Europol)との協力は続けられている。

◆米国との「軍事協力協定」等を巡る連立与党内の意見の相違

【22日付Dennik N電子紙】

米国との「軍事協力協定（DCA）」交渉を巡り、連立与党内の緊張が高まっている。与党第2党「スロバキア国民党（SNS）」が、スロバキアの主権が脅かされるとして同協定に反対しているのに対し、与党第1党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」及び与党第3党「架け橋（Most-Hid）」は同協定を支持している。

22日、ペレグリニ首相（Smer副党首）は「連立与党は、連立政権の優先事

項から逸脱し、個人的な夢や希望を追求している。このような状況では、連立政権を続ける意味はない」と述べた。

連立与党内では、米国との「軍事協力協定」の他、大統領選挙（SNS及びMost-Hidは、Smer支持のシェフチョヴィチ候補を支持していない）、憲法裁判所裁判官選出（Most-HidはフィツォSmer党首を同裁判官に選出することを拒否）、減税政策（SNS及びMost-Hidは、連立与党内で事前に協議することなく、国会に独自の減税案を提出）等を巡り、意見の相違が見られている。

【27日付プラウダ紙】

26日、ペレグリニ首相は、「現時点では、繰り上げ総選挙を行う可能性を排除する」と述べるとともに、「今後も、連立与党間での協議を続けていく。話し合うべきテーマはたくさんある」と付言した。

フィツォSmer党首も、「連立与党内での緊張は感じられない。繰り上げ総選挙を実施する理由はない。連立与党3党（Smer, SNS, Most-Hid）は、次期総選挙（2020年春）までの任期を全うする」と述べた。

◆大統領選挙の結果

【第1回投票（16日）】

16日、キスカ大統領の任期（5年）満了に伴う大統領選挙（第1回投票）が実施された（15名が立候補（後に2名が立候補を取り下げ））。法律家、環境活動家のチャプトヴァー候補と、欧州委員会副委員長のシェフチョヴィチ候補の上位2名が、決選投票に進出した。投票率は48.74%。

候補者名	得票数(票)	得票率
チャプトヴァーPS（野党）副党首（野党 SaS, OLaNO, Spolu 支持）	870,415	40.57%
シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長（無所属。与党 Smer 支持）	400,379	18.66%
ハラビン最高裁判所裁判官（無所属）	307,823	14.34%
コトレバLSNS（野党。極右政党）党首	222,935	10.39%
マイクロシュコ元国会議員（無所属。野党 KDH, OKS 支持）	122,916	5.72%
ブガール Most-Hid（与党）党首	66,667	3.10%
クライニアク Sme Rodina（野党）国会議員	59,464	2.77%

※上位7名のみ

【決戦投票（30日）】

野党プログレッシブ・スロバキア（PS）所属で、主要野党及び与党 Most-Hid の支持を受けたチャプトヴァー候補が、シェフチョヴィチ候補を破り、次期大統領に選出された。投票率は41.79%。

候補者名	得票数（票）	得票率
チャプトヴァー候補（野党 Progressive Slovakia(PS)所属。野党 SaS, OLaNO, Spolu 支持）	1,056,582	58.40%
シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長（無所属。与党 Smer 支持）	752,403	41.59%

チャプトヴァー氏は、6月15日に大統領に就任する。スロバキア大統領の主な役割・権限は、首相・閣僚の任命、栄典の授与、法律への署名、憲法裁判所長官・裁判官の任免、最高裁判所長官・裁判官の任免等であり、政策や外交への影響力は限定的である。

中道左派リベラル候補のチャプトヴァー氏は、大統領選挙前の討論会において、同性カップルのパートナーシップ制度や、同性カップルの養子引き取りを法的に認めることに賛意を示していた。また、外交面については、ユーロ圏のさらなる統合の支持、EU域外の国との経済外交の推進、外交対話における人権侵害のテーマの積極的な取り扱いにつき言及していた。

【大統領選挙の結果に関する報道（4月1日付当地各紙）】

チャプトヴァー氏は、スロバキアで初めての女性大統領（V4諸国の中でも初めて）であり、また、スロバキア史上最年少（45歳）の大統領となる。チャプトヴァー氏は勝利宣言の中で、「スロバキアは変化を必要としている。我々は、保守派とリベラル派の間に橋を架けることができた。より良いスロバキアにするために、協力していきたい」と述べた。チャプトヴァー氏は、第1回投票後にPS副党首を退任しているが、近日中にPSから離党する予定である。

チャプトヴァー候補の支持率は、昨年9月の時点では僅か5.2%に過ぎなかった。政治学者のレンチ氏は、「チャプトヴァー氏は、弁護士、活動家として他人のために戦い続けてきたという自身の経歴を、上手く有権者にアピールすることができた」と述べた。

政治学者のメセジュニコフ氏は、「今回の大統領選挙は、昨年2月のジャーナリスト殺害事件以降のスロバキア政治の変化のプロセスの中に位置づけられていた。内政に不満を持つ人々が結集し、スロバキアの変化のために投票した」と述べた。

決選投票の投票率は、41.79%であり、これまで行われた大統領選挙の中で最も低かった。政治学者のコジアク氏は、投票率が低かった理由として、

「第1回投票で敗北したハラビン氏及びコトレバ氏は、決戦投票において支持できる候補者はいないと発言していた。両氏の支持者の多くは、決戦投票に参加しなかったと見られる」と述べた。第1回投票に参加した有権者の4分の1が、保守派、EU懐疑派、親露派のハラビン候補（無所属）あるいはコトレバ候補（極右政党L SNS党首）に票を投じていた。

外 政

◆クリミア併合5周年に関するスロバキア外務・欧州問題省声明（17日）

ロシアによるクリミア自治共和国及びセバストーポリ市の違法な併合から5年を迎え、スロバキア外務・欧州問題省は、スロバキアがウクライナの主権と国際的に承認された国境内における領土の一体性を引き続き支持することを宣言する。我々は、クリミアとセバストーポリの違法な併合を非難する。我々はこの併合が国際法に違反しており、欧州の安全保障と安定に対する脅威であると認識している。スロバキアは、二国間で、また関連する国際フォーラムにおいて、ウクライナ情勢の平和的解決を追求する努力を続ける。

◆EU・中国関係に関するスロバキア政府要人の発言

【18日付TASR通信】

ライチャーク外相は、ブリュッセルで開催されたEU外務理事会において、4月9日にブリュッセルで開催されるEU中国首脳会合に関し、「EUは、グローバル・プレイヤーである中国との関係を定義する必要がある」と述べるとともに、「EUと中国の間には、良い協力を行うことができる分野もあれば、異なる視点を持っている問題もある」と付言した。

【22日付TASR通信】

ペレグリニ首相はブリュッセルで行われた欧州理事会において、「EU・中国関係は、バランスの取れたものにすべきである。中国はグローバル・プレイヤーであり、良い関係を築く必要がある」と述べつつ、「中国は多くのEU加盟国において、戦略的なインフラにも投資を行っている。EU加盟国は、中国からの投資や輸入を歓迎しているが、EUは中国市場にアクセスするための同様の機会が与えられていない」と指摘した。

社 会

◆エチオピア航空機墜落事故（10日付外務・欧州問題省プレスリリース）

スロバキア外務・欧州問題省は、本日（10日）発生したエチオピア航空機墜落事故に関し、全ての遺族の方々に対し、哀悼の意を表明する。公式情報によると、4名のスロバキア市民も同事故で亡くなった。在エチオピア及び在ケ

ニア・スロバキア大使館と本省は、領事業務の慣習に基づいて、全力で同事故の対応に当たっている。

(注：報道によると、フルンコ国会議員(与党第2党「スロバキア国民党(SNS)」副党首)の夫人及び子女2名が、同事故で亡くなった。フルンコ議員の息子は、スロバキアの旅行会社に務めており、アフリカで勤務していた。フルンコ議員の夫人及び娘は、フルンコ議員の息子を訪問中であった。キスカ大統領やペレグリニ首相を含む多数の政治家が、フルンコ議員に対して哀悼の意を表明した。)

経 済

◆スマートシティに関するV4会議の開催(5日付経済省プレスリリース)

5日、ブラチスラバにおいて、「V4-Slovakia on the Path to Smart Cities」と題するV4会議が行われ、ジガ経済相の他、V4各国の代表者が出席した。昨年、経済省は、10のスマートシティ計画に対して、約50万ユーロを拠出している。ジガ経済相は「ここ数十年で都市は急速に変化しており、我々は、賢い解決策が要求される諸問題に直面している。スマートシティは、これらの問題の解決に寄与するが、市町村、地域、市民及び企業間の協力が必要となる」と述べるとともに、「我々は、ゴミの増加、交通問題、暖房による温室効果ガスの排出及び下水処理等についても話し合った」と付言した。

◆中国発スロバキア経由欧州行きの貨物列車の運行中断(18日付経済新聞)

ウクライナ情勢の影響を受け、中国発スロバキア経由欧州行きの貨物列車の運行が停止している。昨年9月以降、中国の貨物列車はウクライナを経由する運行を避け、ベラルーシ及びポーランドのルートを利用している。Cargo Slovakia社のクンツォヴァー氏は、「現在、ドブラー貨物積み替えターミナル(注：スロバキア東部ウクライナ国境付近に位置。広軌鉄道用車両から標準軌用車両への貨物の積み替えを行う)のルートが利用されていない。当社は、同ルートによる運行再開に向けたプロジェクトを準備している」と述べつつ、詳細については明らかにしなかった。

2018年、中国～スロバキア間で年間500本の貨物列車が運行される予定であったが、2018年1月～10月の運行本数は123本に留まった。交通・建設省は、「ウクライナ情勢の影響により、スロバキアを経由する中国の貨物列車の運行が停止している。最新の情報によると、中国は、2019年第2四半期までに、スロバキアを経由する貨物列車の定期運行を再開する予定だが、ウクライナ情勢によっては予定が変更される可能性もある」とコメントした。(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

